

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50000		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	佐々木 正晴			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験企画書を作成。 ・視覚系活動を制約する実験(視野の遮蔽:アイマスク, 視野の制限:ピンホールめがね, 視野の変換:逆さめがね)を行い, その行動を観察, 分析し, 問題を展開する。報告書を作成する。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企画書をつくり, 計画を表現する手法を身につける。 ・行動を観察し, 分析する処方を身につける。 ・実験事実に基づき新しい問題を展開する手法を身につける。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	演習の手順			演習の進め方の説明						
第2回	視覚世界の崩壊を体験			アイマスク, 逆さめがね, ピンホールを体験						
第3回	場所を変えて体験			公園にてブランコ, 滑り台, 鉄棒の実験						
第4回	過去の実験を参照			前年度の実験成果・報告書の読み合わせ				ディスカッション		
第5回	実験の意義を考える			前年度の実験成果・報告書の読み合わせ				ディスカッション		
第6回	実験の意義を理解した上でもう一度体験			アイマスク, 逆さめがね, ピンホールを体験						
第7回	実験課題を決定			実験Group形成						
第8回	視覚剥奪の意味を知る			実験開始。視野遮蔽実験: 行動の個人差の理由を考える				ディスカッション		
第9回	視野変換の意味を知る			逆さめがね実験: 行動の個人差の理由を考える				ディスカッション		
第10回	視野制限の意味を知る			視野制限実験: 行動の個人差の理由を考える				ディスカッション		
第11回	報告書の作成, 議論			報告書発表: 報告書の書き方を学ぶ				プレゼンテーション		
第12回	報告書の作成方法を知る			報告書発表: 発表の仕方を学ぶ				プレゼンテーション		
第13回	新しい実験を考える			再度, 実験: 新しい実験課題を考える				グループワーク		
第14回	もう一度報告書作成			報告書作成: 書き方の感性				ディスカッション		
第15回	自分がしたことをふりかえる			総括, 成果発表				プレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	<p>平常点評価・毎回, 実験に関する問題を出して小レポートを課す50%, 実験の企画書, 実施, 報告書50%。 実験の企画書, 報告書では, 規格に準じて作成されているか, 実験はそれらを踏まえて実施されているかを評価する。</p>									
課題等	<p>企画書と報告書は演習時に全員で討議する。小レポートは演習時に解説する。</p>									
事前事後学修	<p>毎回の授業最後にレポートを課し, 次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。</p>									
教材教科書参考書	<p>なし。プリント配布。</p>									
留意点	<p>心を込めて企画書と報告書を作成し, 実験すること。 連絡先: sasaki@hirogaaku-u.ac.jp オフィスアワー: (木)14:20~15:50</p>									

科目名	基礎演習 I (2限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50001		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 「論理的な思考法 (logical thinking)」を身に付けて、大学4年間における学修の基礎力を養う。これは同時に将来の入社試験、あるいは公務員試験 (判断推理分野) 対策としても役立つはずである。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	言葉と言葉の「接続関係」、「推測」、「演繹」について正しく理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修				備 考		
第1回	ガイダンス									
第2回	言葉と言葉の「接続関係」			「接続関係」とはなにか						
第3回	「解説」と「根拠」			「解説」、「根拠」の接続表現を使いこなす						
第4回	「付加」と「転換」			「付加」、「転換」の接続表現を使いこなす						
第5回	「接続関係」のまとめ			これまでのポイントを練習問題を解いて確認する						
第6回	「接続構造」			「接続構造」を図で表現する						
第7回	指示関係			指示されていることを明示する						
第8回	まとまった文章の分析			文章全体を通読して、その構造を図で表現する						
第9回	議論の組み立て			議論を始める際に注意すべきこと						
第10回	主題、問題、主張			左記3項の意味を理解する						
第11回	論証の構造と評価			論証を評価する練習を行う						
第12回	論証構造の分析と評価			論証構造を分析する練習を行う						
第13回	演繹と推測			演繹と推測との違いを理解する						
第14回	仮説形成			仮説形成で注意すべき点						
第15回	まとめ			全体のまとめ						
評価方法及び評価基準	各種課題 (50%) と期末試験 (50%) 。 期末試験 (接続表現、論証図、演繹の推測の区別等について) の評価は解答の正否によって行う。									
課題等	授業は各自の「作業」が中心となる。提出された課題は翌週に返却。									
事前事後学修	毎週課題が出される。要する時間は3時間程度。									
教材教科書参考書	『新版 論理トレーニング』(野矢茂樹、産業図書、本体2200円、ISBN978-4-7828-0211-3)									
留意点	一回でも休むと理解が難しくなる。									

科目名	基礎演習 I (3限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50002		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 高等学校までの学習内容（日本語、英語、基礎演算、時事・一般常識）を総復習し、大学4年間の学びの基礎、土台作りとする。また、社会人として必須のビジネス能力も養成する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	上記4分野について、「技能・知識」を一層獲得し、「思考力・表現力」をより高める。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	日本語能力レッスン		自己紹介する、論説文を読む					課題解決型学修		
第3回	日本語能力レッスン		論説文を読む②					課題解決型学修		
第4回	日本語能力レッスン		本の紹介文を書く					課題解決型学修		
第5回	日本語能力レッスン		レポートを作成する					課題解決型学修		
第6回	日本語能力レッスン		レポートを作成する②					課題解決型学修		
第7回	基礎演算レッスン		簡単な計算問題を解く					課題解決型学修		
第8回	基礎演算レッスン		簡単な計算問題を解く②					課題解決型学修		
第9回	基礎演算レッスン		簡単な計算問題を解く③					課題解決型学修		
第10回	英語能力レッスン		就職試験レベルの時事英語を読む					課題解決型学修		
第11回	英語能力レッスン		就職試験レベルの時事英語を読む②					課題解決型学修		
第12回	英語能力レッスン		就職試験レベルの時事英語を読む③					課題解決型学修		
第13回	時事・一般常識レッスン		就職試験にチャレンジ					課題解決型学修		
第14回	時事・一般常識レッスン		就職試験にチャレンジ②					課題解決型学修		
第15回	まとめ		全体のまとめ							
評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、試験解答の正否によって行う。									
課題等	授業は各自の「ハードな作業」が中心となる。また、毎週課題が出される。									
事前事後学修	3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『一冊で突破！SPI3&テストセンター2022年入社用』（成美堂出版編集部、1320円、ISBN978-4-415-23173-0）									
留意点										

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50003		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	坂井 任				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 大学では、自ら課題を設定し、自分で調べ、考え、他人に伝わる文章にまとめる能力が要求される。この授業では、文書作成能力を鍛え、大学で学んでいく上での基礎を作る。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>レポートや論文などの論理的な文章がきちんと書けるようになる。 大学生にふさわしい日本語力・文章力を身につける。 情報検索や図書館の利用法を学ぶ。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	自己紹介の仕方			自己紹介の仕方・自己紹介ワークシート記入・自己紹介						
第2回	図書館利用法			図書館資料の利用法					図書館に集合	
第3回	論理的文章作成の基礎(1)			文章の分類 事実と意見を区別する						
第4回	論理的文章作成の基礎(2)			適切な語の選び方						
第5回	論理的文章作成の基礎(3)			文体の統一						
第6回	論理的文章作成の基礎(4)			句点・読点・記号の使い方						
第7回	論理的文章作成の基礎(5)			読み手が理解しやすい文(1)						
第8回	論理的文章作成の基礎(6)			読み手が理解しやすい文(2) 適切な指標						
第9回	論理的文章作成の基礎(7)			接続詞と指示語						
第10回	文献の引用			引用の作法 文献リストの記載法						
第11回	文章作成の実践(1)			レポート・論文の型とテーマ						
第12回	文章作成の実践(2)			小論文の型						
第13回	文章作成の実践(3)			小論文の型						
第14回	文章作成の実践(4)			図表・グラフの使い方						
第15回	資料の読み方			説明的文章の読み方						
評価方法及び評価基準	<p>平常点(授業・課題への取り組み)2/3、提出物1/3 毎回課題に取り組み、授業への参加度と合わせて平常点とする。課題は全て提出し、各回の目標を達成しているかどうかを評価する。 試験はなし。</p>									
課題等	<p>毎回授業内で課題が出る。授業の終わりに提出して、次回に返却する。</p>									
事前事後学習	<p>返却された課題で、できていなかったところについては、プリントで確認し、復習しておくこと。 事前事後学習は3時間程度が望ましい。</p>									
教材教科書参考書	<p>プリントを配布する。</p>									
留意点										

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50006		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名					授業 形態	演習	単独
授業の概要等	【授業の主旨】 【ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項】 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	基礎演習 I		科目ナンバリング	L-FUSE0-00. H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目コード	B50007		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	松橋 俊輔				授業 形態	演習	単独
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕 本科目は、能動的な読書(自ら本を選び、内容をまとめ、自分の反応を書き出すなど)の方法を知ること、および、それを生かしつつ、現代社会を生きる大人としての基本的な教養に触れることをめざす。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達 目標	<p>1) 接続関係や根拠などの論理を正確に捉える、要約する、質問や反論を考えるなど、能動的な読み方を身に付けることで、やや難解な文章を精読する実際的な方法を知る。 2) 人類社会の過去・現在・未来を俯瞰する視点に触れつつ、現代社会の重要な諸問題について考えることで、幅広い知的関心の基礎を養う。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		・ 本科目の目的・概要・学習及び評価の方法等について説明							
第2回	大学での学び方		・ 授業の受け方、レポートの書き方、ゼミ発表の仕方等について							
第3回	文献を探す方法		・ 図書の検索の仕方を学ぶ ・ 本学図書館を使ってみる						I C T を活用	
第4回	論理的に読む		・ 接続詞について考える ・ 根拠について考える							
第5回	要約する		・ 枝葉を切り取り、骨格をとらえる ・ 根拠をとらえる							
第6回	質問を考える		・ 問いの種類を考える(情報の問い・意味の問い・論証の問い) ・ 質問のよしあしを考える							
第7回	反論を考える		・ 相手の主張そのものではなく根拠を検討・批判する ・ 反論のコツ							
第8回	能動的な読みの実践		・ 全員共通の文献で、報告レジュメを作成する							
第9回	能動的な読みの実践		・ 全員共通の文献で、報告レジュメを作成する						ディスカッション	
第10回	教養の基盤を広げる		・ 受講者による報告と議論 テーマ：宗教／宇宙 ※受講者の関心に応じて柔軟に設定します。						ディスカッション	
第11回	教養の基盤を広げる		・ 受講者による報告と議論 テーマ：ヒト／感染症 ※受講者の関心に応じて柔軟に設定します。						ディスカッション	
第12回	教養の基盤を広げる		・ 受講者による報告と議論 テーマ：経済理論／歴史 ※受講者の関心に応じて柔軟に設定します。						ディスカッション	
第13回	教養の基盤を広げる		・ 受講者による報告と議論 テーマ：「日本(人)」／現代の民族紛争 ※受講者の関心に応じて柔軟に設定します。						ディスカッション	
第14回	教養の基盤を広げる		・ 受講者による報告と議論 テーマ：地政学／ポピュリズム ※受講者の関心に応じて柔軟に設定します。						ディスカッション	
第15回	教養の基盤を広げる		・ 受講者による報告と議論 テーマ：AIとビッグデータ／キャッシュレス社会と仮想通貨 ※受講者の関心に応じて柔軟に設定します。						ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 ・ 授業への取り組み：60% ・ 報告：40%</p>									
課題 等	<p>・ 報告については、受講者相互にコメントしあうとともに、授業者からフィードバックを行う。 ・ そのほかの課題については、授業中に適宜指示する。</p>									
事前事 後学修	<p>・ 報告の準備には十分な時間をとること。 ・ 授業内容について復習しつつ受講すること。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>・ 教科書 池上彰 『おとなの教養—私たちはどこから来て、どこへ行くのか?』 NHK出版、2014年。(ISBN: 978-4140884317) 池上彰 『おとなの教養—私たちはいま、どこにいるのか?』 NHK出版、2019年。(ISBN: 978-4140885819)</p>									
留意 点	<p>特になし</p>									

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50010		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	佐々木 正晴				授業 形態	演習	単独
授業 の 概要 等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験報告書を作成。 ・前期を承け、問題を展開し、実験を続ける。一回の実験毎に報告書を作成。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を介して出来事を表現する手法を身につける。 ・行動を観察する手法を身につける。 ・実験結果に基づき新しい問題を展開する手法を身につける。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	前期成果を確かめる			前期報告書を読み合わせ				ディスカッション		
第2回	前期実験を繰り返し新しい意味を見つける			公園にてブランコ、滑り台、鉄棒、実験						
第3回	新しい実験課題をつくる			実験Group形成、新たな問題を設定				グループワーク		
第4回	実験を自分達で行う			各Group実験開始						
第5回	実験場所を見つけて自分達で行う			屋内歩行実験、報告書				ディスカッション		
第6回	実験場所を見つけて自分達で行う			屋外歩行実験、報告書				ディスカッション		
第7回	屋内と実験結果を比較する			公園歩行実験、報告書				ディスカッション		
第8回	3つの事態の結果を比較する			食事実験、報告書				ディスカッション		
第9回	3つの事態の結果を比較する			楽器演奏実験、報告書				ディスカッション		
第10回	3つの事態の結果を比較する			書字実験、報告書				ディスカッション		
第11回	全実験を比較する、図表をつくる			まとめ						
第12回	次に問題を探す			追加実験、報告書				グループワーク		
第13回	全経過を眺め、まとめる			全体実験、報告書				グループワーク		
第14回	発表の技法を考える			総括、成果発表(Power P.)の準備						
第15回	発表の技法を確立する			成果発表(Power P.)				プレゼンテーション		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>平常点評価・毎回、実験に関する問題を出して小レポートを課す50%、実験の企画書、実施、報告書50%。 実験の企画書、報告書では、規格に準じて作成されているか、実験はそれらを踏まえて実施されているかを評価する。</p>									
課題 等	<p>企画書と報告書は演習時に全員で討議する。小レポートは演習時に解説する。</p>									
事前事後 学修	<p>毎回の授業最後にレポートを課し、次回授業冒頭で解説する。レポート作成の所要時間の目安は3時間である。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>なし。プリント配布。</p>									
留意 点	<p>心を込めて企画書と報告書を作成し、実験すること。 連絡先：sasaki@hirogaku-u.ac.jp オフィスアワー：(木)14：20～15：50</p>									

科目名	基礎演習Ⅱ(2限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50011		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 「論理的な思考法 (<i>logical thinking</i>)」を身に付けて、大学4年間における学修の基礎力を養う。これは同時に将来の入社試験、あるいは公務員試験(判断推理分野)対策としても役立つはずである。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>前期の学修内容を踏まえて、主に「演繹」についての理解を深める。また、「SPI(非言語分野)」の問題も解けるように訓練する。そして最後に、自分でテーマを設定し小論文作成の練習を行い、これに基づいてプレゼンテーションも行う。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	ガイダンス			前期学修項目の復習						
第2回	価値評価			価値評価のパターン						
第3回	価値評価の論証構造			構造図をつくる						
第4回	否定			否定の概念を正しく理解する						
第5回	連言文と選言文			左記についてのド・モルガンの法則を理解する						
第6回	全称文と存在文			左記についてのド・モルガンの法則を理解する						
第7回	条件構造			様々な文章から条件構造を読み取る						
第8回	条件連鎖			条件連鎖をつくる練習を行う						
第9回	存在文			「推論の技術」として存在文の扱いを学ぶ						
第10回	消去法			「推論の技術」として消去法を学ぶ						
第11回	背理法			「推論の技術」として背理法を学ぶ						
第12回	立論、異論、批判			左記3概念を理解する						
第13回	小論文を書く			各自の主題設定で小論文を書く						
第14回	小論文の組み立て、推敲			組み立て方と推敲の仕方について						
第15回	まとめ			全体のまとめ						
評価方法及び評価基準	<p>各種課題(50%)と期末試験(50%)。期末試験(ド・モルガンの法則、演繹のパターン等について)の評価は解答の正否によって行う。</p>									
課題等	<p>授業は各自の「作業」が中心となる。提出された課題は翌週に返却。</p>									
事前事後学修	<p>毎週課題が出される。要する時間は3時間程度。</p>									
教材教科書参考書	<p>『新版 論理トレーニング』(野矢茂樹、産業図書、本体2200円、ISBN978-4-7828-0211-3)</p>									
留意点	<p>一回でも欠席すると理解困難になる。</p>									

科目名	基礎演習Ⅱ(3限目)		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50012		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	鎌田 学			授業 形態	演習	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 例えば、自分でテーマを設定し小論文を作成、これに基づいてプレゼンテーションを行う等、前期学修を踏まえて、各分野の能力を一段と高める。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	上記4分野について、「技能・知識」を一層獲得し、「思考力・表現力」をより高める。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	ガイダンス		授業の進め方							
第2回	日本語能力レッスン		テーマを設定し、小論文を作成する					課題解決型学修		
第3回	日本語能力レッスン		テーマを設定し、プレゼンテーションする					課題解決型学修		
第4回	日本語能力レッスン		テーマを設定し、グループディスカッションを行う					課題解決型学修		
第5回	日本語能力レッスン		論説文を平易な言葉で解説する					課題解決型学修		
第6回	日本語能力レッスン		論説文を平易な言葉で解説する②					課題解決型学修		
第7回	基礎演算レッスン		公務員試験レベルの計算問題を解く					課題解決型学修		
第8回	基礎演算レッスン		公務員試験レベルの計算問題を解く②					課題解決型学修		
第9回	基礎演算レッスン		公務員試験レベルの計算問題を解く③					課題解決型学修		
第10回	英語能力レッスン		英語で書かれた論説文を読む					課題解決型学修		
第11回	英語能力レッスン		英語で書かれた論説文を読む②					課題解決型学修		
第12回	時事・一般常識レッスン		公務員試験にチャレンジ					課題解決型学修		
第13回	時事・一般常識レッスン		公務員試験にチャレンジ②					課題解決型学修		
第14回	時事・一般常識レッスン		公務員試験にチャレンジ③					課題解決型学修		
第15回	まとめ		全体のまとめ							
評価方法及び評価基準	各種課題（50%）と期末試験（50%）。期末試験の評価は、試験解答の正否によって行う。									
課題等	授業は各自の「ハードな作業」が中心となる。また、毎週課題が出される。									
事前事後学修	3時間程度の準備が必要。									
教材教科書参考書	『一冊で突破！SPI3&テストセンター2022年入社用』（成美堂出版編集部、1320円、ISBN978-4-415-23173-0）									
留意点										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50013		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	坂井 任				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 レポートには大きく分けて「報告型」と「論証型」がある。この授業では、「報告型」のレポートを例に、レポートの書き方を身につけ、授業のレポートや卒論等に活かす。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>レポートがきちんと書けるようにする。特に、レポートの構成や引用の仕方などを正しく身につける。また、文献・資料の収集の仕方も学ぶ。 レポートの作成を通じて、情報リテラシーを身につける(インターネット等による情報収集・文献検索、パソコンによるレポート作成など)。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	レポートとは			レポートの種類						
第2回	テーマの選び方			レポートのテーマを選ぶポイント						
第3回	テーマを考える			レポートのテーマの候補を考える						
第4回	テーマに関する下調べ			テーマ候補に関する言葉調べ・キーワード調べ						
第5回	テーマに関する文献検索			テーマ候補に関する文献を調べる					LL教室	
第6回	テーマの決定			レポートのテーマを決定する					LL教室	
第7回	アウトラインをつくる			レポートの概要構成を考える					LL教室	
第8回	引用と参考文献			文献引用に関する注意・参考文献リストの作り方					LL教室	
第9回	レポート下書き1			レポートの書き方に関する注意① レポートの下書き①					LL教室	
第10回	レポート下書き2			レポートの書き方に関する注意② レポートの下書き②					LL教室	
第11回	レポート下書き3			レポートの書き方に関する注意③ レポートの下書き③					LL教室	
第12回	パソコンによるレポート作成1			パソコンでレポートを作成する際の注意 レポート作成作業①					LL教室 USBメモリー用意	
第13回	パソコンによるレポート作成2			レポート作成作業②					LL教室 USBメモリー用意	
第14回	パソコンによるレポート作成3			レポート作成作業③					LL教室 USBメモリー用意	
第15回	パソコンによるレポート作成4			レポート作成作業④					LL教室 USBメモリー用意	
評価方法及び評価基準	<p>授業への参加度(40%)、課題への取り組み・提出物(40%)、レポート(20%) 毎回取り組んだ課題を提出し、内容と授業への取り組みを総合して各回の平常点とする。完成したレポートと合わせ評価する。レポートは、レポートの構成上・記述上のルールに従って論理的にかかっているかを評価する。レポートを提出しないと単位は修得できない。 試験なし。</p>									
課題等	<p>毎回授業内で課題が出る。コメントを入れて次回に返却する。 レポートは添削して返却する。</p>									
事前事後学習	<p>授業内で十分に調べられなかったことは、図書館・インターネット等を利用して調査しておくこと。 返却された課題のコメントをもとに、レポートを改善すること。事前事後学習は3時間程度が望ましい。</p>									
教材教科書参考書	<p>小笠原喜康『講談社現代新書 最新版大学生のためのレポート・論文術』(本体800円+税) ISBN 9784065135020</p>									
留意点	<p>上記教科書を購入すること。</p>									

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50016		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名					授業 形態	演習	単独
授業の概要等	〔授業の主旨〕 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。									
到達目標										
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回										
第2回										
第3回										
第4回										
第5回										
第6回										
第7回										
第8回										
第9回										
第10回										
第11回										
第12回										
第13回										
第14回										
第15回										
評価方法及び評価基準										
課題等										
事前事後学修										
教材教科書参考書										
留意点										

科目名	基礎演習Ⅱ		科目ナンバリング	L-FUSE0-01.H	単位数 時間	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目コード	B50017		30時間				
区分	基礎科目	必修	担当者名	松橋 俊輔				授業 形態	演習	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 複数の文献をもとに自分なりの考えを練り上げ、レポートにおいて求められる形式に即して表現する経験をする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1-1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1) 複数の文献を読んで問いを立て、問いを吟味しつつ絞り込む経験を通して、自ら問いを立てて考える力を伸ばす。 2) 自らの疑問に即して複数の文献を探して読む経験を通して、主体的に読書する力を伸ばす。 3) レポートにおいて求められる形式を知り、それに従ってレポートを書けるようになる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	ガイダンス		<ul style="list-style-type: none"> ・本科目の見通し ・小論文との違いとレポート・論文課題のタイプ 							
第2回	レポートの条件		<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の条件と規範 ・資料探しに着手する 							
第3回	問いの立て方		<ul style="list-style-type: none"> ・問いを立てるための読み方 ・問いの絞り込みと定式化 							
第4回	レポートの型		<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の構成要素 ・それぞれの部分の内容 							
第5回	アウトラインを作る		<ul style="list-style-type: none"> ・アウトラインとは何か ・アウトラインを発展させる 							
第6回	パラグラフ・ライティング		<ul style="list-style-type: none"> ・パラグラフの構造 ・パラグラフとアウトライン 							
第7回	アウトライン報告・相談会		<ul style="list-style-type: none"> ・グループでアウトライン内容を互いに報告し、質問し合う 							
第8回	レポートの書式		<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献の挙げ方 ・注のつけ方 ・そのほか表記のルール 							
第9回	わかりやすい文章を書く		<ul style="list-style-type: none"> ・わかりにくい表現のパターン ・読みやすい表現の小さな工夫 							
第10回	レポート・論文執筆の考え方		<ul style="list-style-type: none"> ・レポート、その他文章を書くにあたっての考え方 ・レポート内容についての相談会 							
第11回	プレゼンの方法		<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン資料作成の留意点 ・プレゼンテーションの効果的な方法 							
第12回	レポート発表会		<ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointで各自のレポート内容を発表する 							
第13回	レポート発表会		<ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointで各自のレポート内容を発表する 							
第14回	レポート発表会		<ul style="list-style-type: none"> ・PowerPointで各自のレポート内容を発表する 							
第15回	まとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・授業全体の総括 							
評価方法及び評価基準	<p>評価項目及び評価の割合は以下の通りとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み：50% ・レポート：35% ・プレゼン：15% </p>									
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートは、授業者によってコメントを付して返却する。 									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートの執筆に際しては、授業時間外に文献を探したり、文献を読み分析したり、レポートの執筆作業を進めることが求められる。 									
教材教科書参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：指定せず、配付資料を用いて授業を進める。 ・参考図書：授業中に適宜提示する。 									
留意点	<p>特になし</p>									